

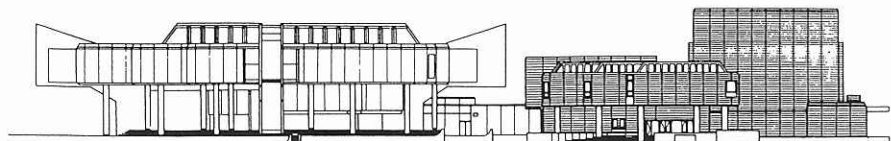
刀 銘 肥前国吉家
文化庁所蔵 (接收刀剣類)

佐賀県立博物館・美術館報

SAGA PREFECTURAL MUSEUM · SAGA PREFECTURAL ARTMUSEUM

30 November 2004

No. 133



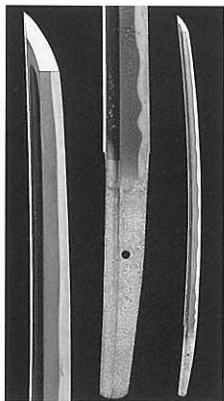
企画展紹介

博物館企画展「よみがえる肥前刀」

昭和20年(1945)8月の太平洋戦争終結により、多数の刀剣類が接収されました。廃棄されたり、海外に流出したものもありましたが、数十万本の刀剣が東京の赤羽に集められ、そのうち文化的価値が認められた約5,500本は東京国立博物館に移されて保管されました。のちに200本が加わり、あわせて5,700本の接収刀剣類は赤羽刀と呼ばれることとなります。所有者が判明した約1,100本は返還されましたが、多くは最近にいたるまで眠ったままでした。しかし、戦後50年を契機として活用・公開がはかられ、国が保管するものを除いた3,209本が全国の公立博物館等へ無償で譲られました。

佐賀県立博物館は平成11年に114本の譲受を受けましたが、その多くは傷んでいたため、78本を修理しました。

今回の展覧会は、修理によって輝きを取り戻した赤羽刀をお披露目するもので、その中心となるのは、佐賀藩主鍋島家の御刀鍛冶(御用刀工)の忠吉とその一門がつくった、いわゆる肥前刀です。



国宝 刀(名物中務正宗) 文化庁所蔵

あわせて、平安時代以降の各時代の名品を展示して日本刀の歴史を振り返り、拵や鐔など周辺を飾る美術を紹介しました。

【展示構成】

1. 日本刀の歴史 — 平安から明治まで

わたしたちがイメージする日本刀が完成したのは平安時代のことといわれます。この章では、接収刀剣類以外の作品も特別に展示し、平安時代から明治時代の初めまでの、各時代を代表する名品を通して、日本刀の形の変遷や歴史を御覧いただきました。

国宝の正宗(名物中務正宗)や上杉謙信の太刀(来国俊)、大河ドラマ新選組にも登場した虎徹の作品、江藤新平や島義勇の刀など、豪華絢爛なラインナップを御覧いただきました。

2. 肥前の古刀

忠吉一門が登場する前史として、肥前の古刀(中世以前の刀)を紹介합니다。肥前の古刀は残っている作品も少なく、わからないことが多いのですが、接収刀剣類には、国公、盛次、盛広、家次、貞俊などの刀工の作品が含まれていて、これから研究をすすめるうえで貴重な情報を提供しています。



雨竜図鐔(忠長) 館蔵

3. 忠吉とその一門

佐賀藩主鍋島家の御刀鍛冶(御用刀工)の忠吉とその一門は、江戸時代を通じて100人を超える刀工を輩出した隆盛を極めました。江戸時代の『懐宝剣尺』という刀剣書では、刀を切味でランク付し、最高の最上大業物12名に、初代忠吉など肥前刀から3名が選ばれるなど、美しさと実用性を兼ねたものであったことがわかります。今回の展覧会の核となる初公開の接収刀剣類約60点を展示しました。

4. 肥前各地の刀鍛冶

肥前の国の刀工は忠吉一門だけではありません。忠吉と同じ佐賀出身で諫早家に仕えた宗次、唐津で活躍した本行、平戸の正重など、それぞれに個性ある作風の刀をつくっています。

5. 刀の制作と修理

この章では、刀工や研師、鞘師、白銀師、鞘塗師、柄巻師など、刀剣にかかわる人々の仕事について、さまざまな写真や見本、道具類を使って紹介しました。

参考出品

刀の拵や鐔など、刀剣の周囲を飾った美術を紹介しました。儀式用の豪華な毒絵の太刀拵や格調高い小紋の上下(かみしも)に武家の晴れの日を、肥前具足や肥前鐔の鉄の枝に質実剛健な葉隠武士の好みを感じていただきました。

今回の展覧会は、予想を越える7000人以上の入場者を迎えました。アンケートや会場での感触からみて来場者の満足度も高かったようです。多数の甲冑や鐔などの参考出品により単調になりがちな刀剣の展示に変化が生まれ、質の高い展示が実現できました。これは当館が30年以上にわたって収集してきたコレクションを活用したもので、古参の博物館の面目を改めることとなりました。

また、関連事業として3回開催した居合道演武も格調が高く、毎回200人以上が詰め掛け、十分な成果をあげました。休憩所で放映した日刀保たたら操業映像も、刀剣と鉄の理解に役立つ貴重なものでした。

図録については、上質な押形や解説にくわえ、用語解説などの資料を充実させることで、専門家から初心者まで、さまざまな要求にこたえうるものができたと自負しています。これは、横山学氏(肥前刀調査会)や今川泰靖氏(当館嘱託)、内藤直子氏(大版歴史博物館)ら館内外の研究者の御協力の賜物で感謝申し上げます。

【主催】 佐賀県立博物館

【会期】 平成16年10月29日(金)～11月28日(日)

※月曜日休館 27日閉

【会場】 佐賀県立美術館2・3号展示室

【入場料】 大人 620円(510円)

大学生 300円(200円)

高校生以下無料、()内は20名以上の団体料金

【展示内容・点数】 約170点(刀剣類約100点)

※会期中に展示替えを行った。

【付随事業】 居合道演武(試し斬り)

佐賀県剣道連盟居合道部

11月6、13、20日(土) 14～15時

佐賀県立美術館ホール

(学芸課 竹下正博)



湊・日輪打出五枚胴具足(宮田勝貞作) 館蔵

研究ノート

岡田三郎助晩年のサインについて

洋画家・岡田三郎助の自筆の文章はいまだ発見されていない。岡田の美術論、批評などの雑誌掲載文は、その多くが談話に拠っている。彼の筆無精はつとに有名であったようで、岡田没後、遺徳を偲んで寄せられた文集中にはそのことについて触れた文章を散見する。画塾「天真道場」時代からの友人であった白瀧幾之助は、岡田の代筆を妻八千代（劇作家・小山内薫の妹）が行っていたと述べている。また、岡田と同郷のシュールレアリスト・古沢岩美は、少年時代の7年間、岡田家の玄關書生をしていたが、そのころは岡田の秘書であった中山女史が代筆していたという。今日、古書目録などにときおり見かける岡田自筆とされる手紙には、やはり書体が幾種類か見受けられる。

このように、岡田の自筆文献が皆無という現状から、彼の筆跡を研究するにあたっては、作品に記されたサインを調べるのが、残された唯一の又きわめて有効な手段となる。ここでは、岡田のサインについて、右に示した晩年の作品について見てみたい。それらを比較することによって、筆跡の点から真筆を危惧されることもある岡田の作品についての判断材料としたい。

作品はいずれも、現在の熱海市伊豆山温泉を、東側の丘上に位置した旅館窓々園から眺め下ろして描かれている。岡田は療養をかねてここに昭和10年と同13年に滞在した。a、bは昭和10年の作であり、c、d、e、fは昭和13年の作となる。このうちbとeについては、作品の写真図版のみに頼らざるを得ず、サインの詳細な判読はできないものの、伊豆山を描いた風景画の連作的な意味合いを確認するために掲載した。他方、伊豆山を描いてはいないが、《大磯風景》のサインは、昭和12年の書き込みであり、岡田が伊豆山風景を描いた頃のサインと同列に考え得るものである。

以上5例のサインを比較すると、まず一瞥して、いずれかのサインが突出して違和感を感じさせるところはない。むしろ共通の特徴として、

- ①岡田の「田」が下に細まっていること。
- ②「田」字の第3画、4画の十の字が□部の中にくさく収まること。

- ③三郎助の「三」の第一画、第二画の横棒がほぼ同じ長さであること。
- ④三郎助の「郎」の旁「邑」部の第3画の縦棒がその第1画の横棒から離れること。
- ⑤三郎助の「助」の旁「力」の第2画ノの先端がやや折れるようにして向きを変えて筆止めされること。

など、5つの特徴が見られ、他にもいくつかの気付きが挙げられる。「郎」の第6画の点が打たれないこと。「和」の口部の位置がやや高く、そのことを強調することにもなるのだが、「和」の「禾」部の縦棒がより長く引かれること。また「豆」の第5画と第6画の点が縦に短い線として引かれていること。「山」の第1画の縦棒が短く、そのため字全体が縦に狭まった形となっていること。このうち最初に番号を振った5つの特徴は、岡田の他の年代の作品にも適用され得るものであった。

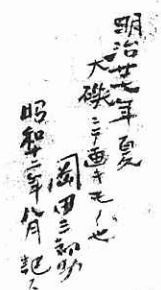
つぎに、右の写真にある《女の顔》台座底面の書き込みについてであるが、これは、像高14センチのブロンズ像の木製台座の底面に見られる書き込みである。彫刻にはサイン等の刻印は見られないが、岡田の制作になることは間違いないものである。ただし、この書き込みが果たして岡田自身に因るものなのかについては、異論を唱える余地が残されている。しかし筆者は、この書き込みが岡田の直筆であると考え。理由としては、ここに掲載した他の岡田サインとの一体感。それに加えて、「田」「年」「岡」の字の共通性などはさらにこのことを確認しうるものである。なかでも「田」のさきに挙げた①の特徴はここでも該当している。

右頁の岡田作品の中には、近年はじめて公開された作品も含まれている。これらは、すくなくともサインの比較からは、疑義を挟み得ない。また図様においても、詳細は省くが、その年代の要件を十分に満たしているものである。

岡田のサインについては、その形式において編年史上の問題が残されているが、このことについては稿を改めたい。
(学芸課長 松本誠一)



サインa



《大磯風景》(明治27年)のサイン



a 《伊豆山風景》昭和10年 65×100



b 《伊豆山風景》昭和10年 49×59



c 《伊豆山》昭和13年 61×50



d 《伊豆山風景》昭和13年 50×65



e 《伊豆山風景》昭和13年 66×100



f 《伊豆山風景》昭和13年 22×27



サインc



サインd



サインf



岡田三郎助《女の顔》(ブロンズ)の台座底面の書き込み

レポート

「先生のための博物館・美術館講座」について

平成16年度の新規事業として小学校教諭を対象とした「先生のための博物館・美術館講座」を実施したのでその概要と今後の課題を報告する。

この事業は、学校における博物館・美術館利用を促進し、児童・生徒にとって身近な存在となり将来の入館者が増加することを目的とする。そのためには、まずは学校の先生方に博物館・美術館の展示資料を知ってもらい、授業や総合学習などで直接利用してもらうことを今年度の目的とした。また、当館は県庁の近くにあり、修学旅行で近くに来る学校も少なくない。ワークシートを利用して熱心に解説を聞いてくれる学校が大半であるが、中には昼食時に軒先を利用するだけの学校もあり、学校間でかなりの温度差がある。このことから、児童・生徒を目的とするだけでなく、引率の先生方に博物館・美術館に興味・関心を持ってもらうことが必要不可欠であることを痛感した。

実施にあたっては、先生方が参加しやすいように夏休み期間とし、博物館・美術館の各展示分野から1コマ2時間の講義・実習を行うこととした。研修として参加していただけるように、県の学校教育課に相談をしたが、上手く連絡が付かず県立博物館・美術館主催での講座開催となった。日程については複数の学校の行事予定を参考に、8月中旬の月曜休館日を含む3日間、6コマの講座を展開した。申込は1日単位（複数受講可）とし、ファクシミリや電子メール、往復はがきによるものとした。以下は募集要項の縮小版である。

佐賀県立博物館・佐賀県立美術館／平成16年度
『先生のための博物館・美術館講座』

博物館・美術館では、博物館・美術館を会場に展覧会だけでなく、体験型の講座を多数用意し、たくさんの方たちや保護者の方々に利用していただいています。さらに今年度は、学校の先生方にも博物館・美術館を利用していただくということで、「先生のための博物館・美術館講座」を開催します。常設展を中心に、担当学芸員が資料資料の解説をします。博物館・美術館の展示概要や収蔵資料を知っていたら、学校教育で有効に利用していただければと思っています。どうぞお申し込みください。

◆日程など（受付は9：45～、美術館2階の画廊・研修室にて）

◆日程など	8月16日(月)	8月17日(火)	8月18日(水)
10:00～12:00	<自然史> 佐賀県の地形の成り立ちと、そこに生息する生きものたちを紹介しします。	<歴史> 中世から近・現代までの佐賀の歴史の解説を、展示資料をしながら紹介します。	<美術①> 佐賀県の近代美術の流れを分かりやすく紹介します。
13:00～15:00	<考古> 先史から古代の佐賀の歴史、展示資料に絡れながら紹介します。	<民俗> 目の前におあるお祭りの中でも、特に佐賀県に特有なものを中心に紹介します。	<美術②> 常設展に設置されている鑑賞教材づくりを行います。

◆受講料 無料

◆募集対象 小学校の先生方（午前・午後とも受講可能の方）。

◆応募締切 7月30日(金) 必着

◆応募要項 1日単位でお申し込みください。（複数受講可）
FAX、Eメールまたは往復はがきに**受講を希望する日**、氏名、学校名、住所、電話番号を明記のうえお申し込みください。

◆おて先 〒840-0041 佐賀市城内1-1-23
佐賀県立博物館「先生のための博物館講座」係
Fax 0952-25-7006、Eメール hidatomoko@pref.saga.lg.jp

◆決 定 応募者が多数の場合は抽選で決定。受講の可否は8月6日(金)までに、お申し込みいただいた方法で応募者全員に通知します。

◆お問い合わせ先 佐賀県立博物館 学習課 飯田智子/TEL0952-24-3947

図1 募集要項

上記の要項を県内の小学校長あてに送付したところ、22名の応募があった。内訳は次の通りである。

表1 応募者内訳（講座別）

講座名(日付)	人数
自然史・考古 (8/16)	17名
歴史・民俗 (8/17)	10名
美術①・美術② (8/18)	6名

表2 応募者内訳（教育事務所別）

教育事務所	人数
三神教育事務所	6名
佐城教育事務所	6名
東松浦教育事務所	6名
杵西教育事務所	4名
藤津教育事務所	0名

3日目の美術①・美術②の応募が少なかったのは、2日後に当館で同様の内容で教育センター講座が行われたことによるものと思われる。また、修学旅行で米館が多い藤津地区からの参加がなかったことは残念に思う。

講義の内容は担当学芸員に任せましたが、常設展示を中心に博物館・美術館の資料を知ってもらうことを基準に講義を行った。1日目の自然史・考古は、休館日ということで、午前・午後とも展示室でガラスケースを開けて解説を行った。私は自然史の担当だが、岩石標本や樹脂封入標本などはすべて手にとって観察してい



写真1 考古の解説の様子（博物館2号展示室）

ただいた。「授業で説明はしていても実際に触れたのは初めて」という意見も多く、特に佐賀県特有のものというのは各分野とも関心が高かった。また、美術②では教材づくりを行い、すぐに授業に役立つ実習となった。

博物館・美術館の展示を知ってもらい、学校でこどもたちに還元してもらおうという目的は達成できたと思われる。しかし、今回の講座で多くの課題が見つかったのであけておく。

まず、広報不足であったこと。文書の発送だけだったため、一部の学校では職員に募集要項が紹介されなかった。今後は、校長会や各市町村の教育委員会、教育事務所での紹介が有効だと思われる。また研修としてのPR不足でもあった。博物館・美術館主催の講座ということで学校として積極的に参加するところがあれば、個人の研修として休みを取って参加しなければならないところもあり、きちんとした研修として学校側に認められるようにしなければならない。そのためにも学校教育課との連絡を密にし、博物館・美術館の単独事業ではなく教育委員会として取り組みればと思う。次に、講座としての内容の充実があげられる。博物館・美術館が教育施設として利用していただくためには、学校現場のことを知っておく必要がある。教育課程を研究し、授業や総合学習などで利用できるように調査しておく必要がある。そのためには現場の先生方と意見を交換する場を設けることも必要になってくる。

今回初めて学校の先生方に向けた講座を実施し、改めて博物館・美術館に求められているものや課題が見えた。来年度以降、より充実した講座となり、博物館・美術館を利用することもたちが増えることを期待する。

（学芸課 飯田智子）

今後の展覧会の予定

■博物館 テーマ展示

10月14日(木)～12月12日(日) 「生き物のふしぎを見ようII」<自然史>

12月14日(火)～2月13日(日) 「有明海図鑑」<民俗>

2月15日(火)～4月10日(日) 「発掘された佐賀1」<考古>

会 場：博物館3号展示室 テーマ展示コーナー

観覧料：無料

■博物館 常設特別展

1月28日(金)～3月6日(日) 「くらしを映す木器展—古代の木工—」

会 場：美術館2・3号展示室 観覧料：無料

■佐賀城本丸歴史館連携事業

1月2日(日)～1月23日(日) 幕末・維新期「雄藩への道」展

会 場：美術館4号展示室 観覧料：無料

■美術館 近・現代の工芸

10月14日(木)～1月16日(日) 「緞通と鍛金」

1月18日(火)～4月10日(日) 「染色と鍍金」

会 場：美術館1号A展示室 観覧料：無料

■美術館 常設展

12月16日(木)～1月23日(日) 「絵画にみる江戸時代」

会 場：美術館2・3号展示室 観覧料：無料

3月10日(木)～4月10日(日) 「未知への挑戦—佐賀の現代絵画—」

会 場：美術館2号展示室 観覧料：無料

3月23日(水)～4月10日(日) 「江戸・明治の書」

会 場：美術館3号展示室 観覧料：無料

※開館時間

美術館 9：30～18：00 (入館は17：30まで)

博物館 9：30～20：00 (入館は19：30まで)

平成16年度から開館時間が変更になっています。

佐賀県立博物館・美術館報 第133号

平成16年11月30日

編集発行 佐賀県立博物館・美術館

〒840-0041 佐賀市内1-15-23 ☎0952-24-3947 0952-25-7006

ホームページアドレス <http://www.pref.saga.lg.jp/at-contents/kankobunka/k-shisetu/hakubutu/index.html>

E-mail hakubutsukan-bijutsukan@pref.saga.lg.jp

印刷 大同印刷株式会社